2025 年度　採択

コミュニケーションツールとしての DX

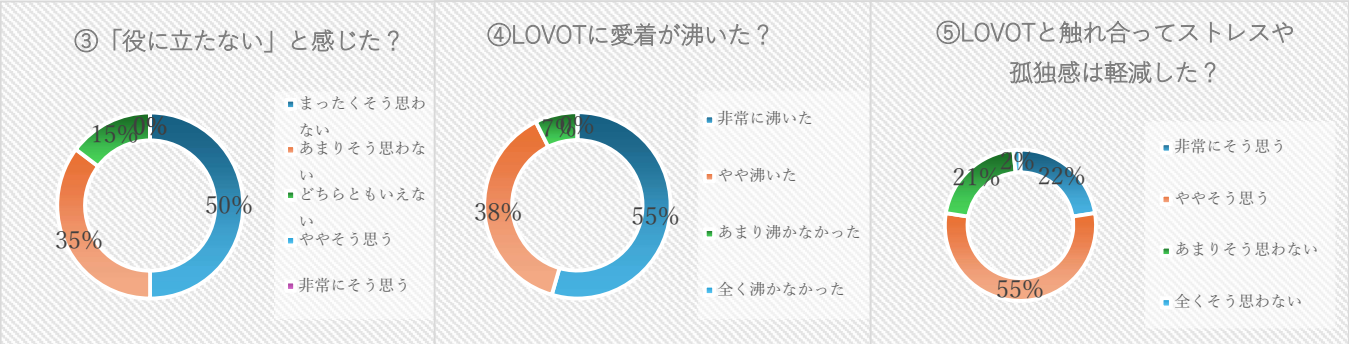
愛知県立小牧工科高等学校　青山　和忠
高橋　吾郎

1. 研究背景と目的

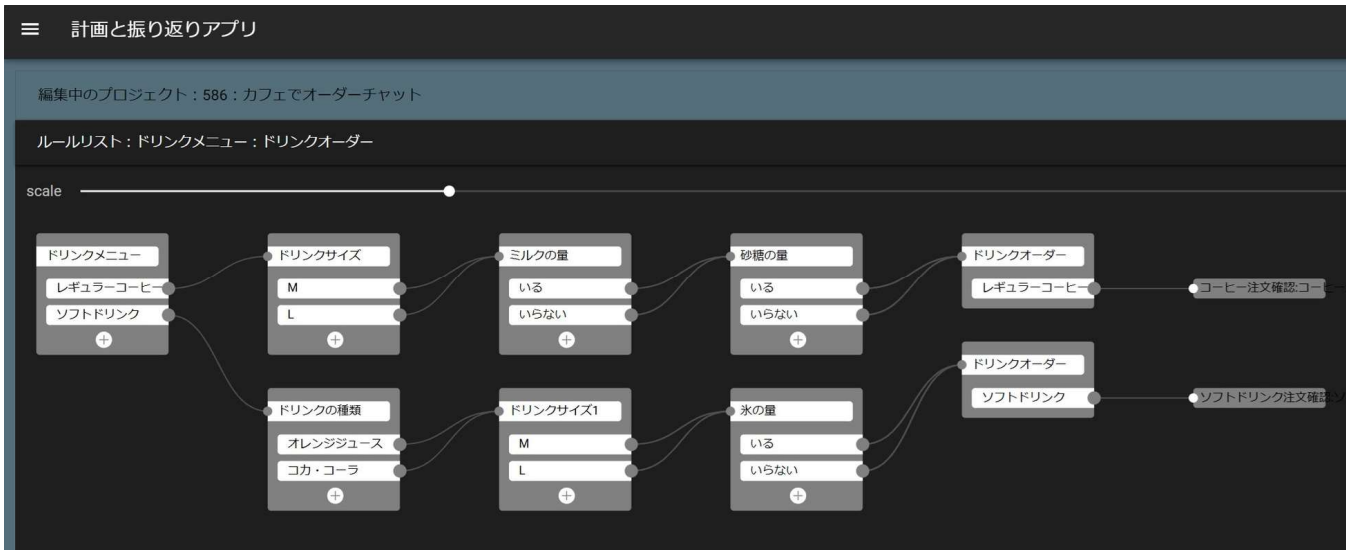
効率化を目指すロボット開発が進む一方、「仕事を奪う」不安もあります。そんな中、人に寄り添うロボットの価値に注目し、LOVOT との生活体験から心が穏やかで幸せを感じる理由を探り、また、DX が進む未来の人と人とのコミュニケーションを考えます。

2. これまでの取り組み・現状と課題

(a)特別支援学校に LOVOT を導入し、教員・生徒の使用体験を収集しました。
アンケートと話し合いを通じて「心を穏やかにし幸せを感じさせる体験」を分析しました。



(b) デジタルサイネージ実習
最新の画像生成 AI を用い、スマホ等でのやり取りやチャットボット作成を通じ、次世代のコミュニケーション技術を体験。



(C) デジタルラボ実習室
誰でも自由に工作機械やパソコンを利用できる環境を整備し、生徒同士の交流とモノづくりを促進する空間づくりを推進。

3.まとめと今後の展望

DX が進む中、効率化だけでなく「人に寄り添うコミュニケーション」が重要です。特別支援学校で LOVOT を活用し心の安らぎを探るとともに、画像生成 AI やチャットボットの実習で次世代の対話技術を体験。さらに、誰でも使えるデジタルラボを通じて、生徒同士が協力し新たなコミュニケーションの形を創出しています。

また、今後の展望は今年度から新たにサーバーを購入し、情報Ⅱの授業の中で生成 AI を生徒が作れるような環境や、内容を考えています。また、企業と連携をして、SNS などのツールの勉強会などを進めていきたいと思います。

問い合わせ先：aoyama8675@aichi-c.ed.jp